

令和元年度 学校評価報告書（総表）

令和 2 年 6 月 1 日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属桐が丘特別支援学校	校長名	下山 直人
幼児・児童・生徒数	115	学級数	31

2 教育目標等	
① 学校教育目標	教育基本法及び学校教育法、学習指導要領の示すところにより、肢体不自由及びその他の障害を併せ有する児童生徒に対して、個々の個性と障害の実態に応じた教育を行い、豊かな人間性を持ち、主体的に自立と社会参加を目指し、生涯にわたって自己の生き方を探求していく人間を育成する。
② 学校経営方針	(1) 附属学校として筑波大学の教育研究と連携協働 (2) 先導的で高度な教育研究の展開と成果の発信 (3) 安心・安全な学校づくり (4) 附属学校の使命の自覚と教職員としての誇り (5) 公開性・透明性の高い学校経営 (6) 人事の流動性を高めた教職員組織の活性化 (7) 学校機能及び学校運営の効率化
③ 重点目標	① 年間指導計画（モデル）の作成 重点を置く事項を明確にし、肢体不自由のある児童生徒の実態に応じた年間指導計画（モデル）を作成する。 ② ステークホルダーとの信頼関係の構築 医療的ケアの実施体制を整備する。保護者等に対し、教育・研究に関する説明を丁寧に行う。 ③先導的教育研究の成果発信 文部科学省事業の成果を整理し、報告書を作成するとともに、対外的な発信を積極的に行う。 ④関係機関との連携研究の推進 本学システム情報系研究室等と連携し、ロボットスーツ HAL（腰タイプ）の特別支援学校における活用の有効性を明らかにする。 ⑤校舎改築工事期間中における教育活動の充実 行事の持ち方や教員連携の工夫等により、教育活動の質を維持する。 ⑥教育課程及び学級編制の再編 将来構想を明確化し、同構想に沿った教育課程及び学級編制の在り方を明確にする。

<p>④ 前年度（平成 30 年度）の成果と課題</p>	<p>【平成 30 年度の重点目標と成果】</p> <p>○授業の充実 教員の授業に対する自己評価が高まった（18pt 上昇）。しかし、研究授業の対象は依然一部の教科や学級に偏り、それ以外の教科や学級の授業を教員相互で見合う機会等を増やすことはできなかった。</p> <p>○ステークホルダーとの信頼関係の構築 学校ホームページの再構築を図るため、外部企業にリニューアルを依頼した（作業継続中）。保護者の学校評価アンケートでは、一定の評価を得たが一部で課題も残した。</p> <p>○先導的教育研究の成果発信 重複障害児、重度・重複障害児を対象とする研究の成果をまとめ、肢体不自由教育実践研究協議会等で発表した。</p> <p>○肢体不自由教育の専門性の維持・向上 「自立活動の時間における指導に当たって（対応指針）」を作成し、校内での自立活動指導について学校の方針を明示した。</p> <p>○入試作業の改善 試験問題の作成過程と確認作業を改善し、ミスなく入試を終えた。</p> <p>○教育課程及び学級編制の再編 学校教育目標、学部教育目標、目指す児童生徒像を見直し、改訂した。学級編制の検討についても校内委員会が中心になって進めることを確認した。</p>
------------------------------	--

<p>3 重点目標達成についての総括的評価</p>
<p>① 年間指導計画（モデル）の作成 重点化した指導について、研究協議会において、全校的に授業公開を行った。授業公開にあたり、教科内、学部内での指導案検討を通して各授業を共有することができた。各教科において、年間指導計画例を作成した。</p> <p>② ステークホルダーとの信頼関係の構築 学校ホームページを刷新した。後半は、新型コロナウイルス感染拡大防止などの緊急連絡が増えたことから、より迅速な情報の配信方法について課題となった。</p> <p>③ 先導的教育研究の成果発信 障害の重い子供の教科指導を含む文部科学省事業の成果について、第 48 回肢体不自由教育実践研究協議会や報告書において対外的な発信を行った。また、特殊教育学会等において積極的に発信を行った。消費者教育について、文部科学省事業を受託し、生徒の自立に向けた教育を検討した。</p> <p>④ 関係機関との連携研究の推進 各教科に関する研究をベースに、全国の肢体不自由特別支援学校 8 校と遠隔授業を行い、他校との連携による授業改善の足掛かりを作った。本学システム情報系及び企業との連携により卒業式のライブ配信を行い、在校生・保護者から好評価を得た。</p> <p>⑤ 校舎改築工事期間中における教育活動の充実 旧校舎と新校舎を利用し、安全点検、避難経路の修正を行い、教育活動を行った。行事を一部縮小するなどの工夫を行いながら、児童生徒の日頃の学習の成果を発表する機会を確保することに努めた。</p> <p>⑥ 教育課程及び学級編制の再編 将来構想を明確化し、同構想に沿った教育課程及び学級編制の在り方を検討し、定員未充足の一部改善を図った。</p>

<p>4 令和 2 年度の学校課題</p>
<p>○教育目標を実現する教育課程の編成と実践（カリキュラムマネジメント）</p> <p>○全国のネットワークを生かした授業改善、障害の重い子供の教科指導開発</p> <p>○保護者との連絡方法の多様化、質の高い教職員の確保</p> <p>○整肢療護園に入園する児童生徒の教育に関する東京都との交渉継続</p> <p>○本校校舎改築に係る対応（行事の変更、Ⅲ期工事の計画等）の検討</p> <p>○医療的ケアへの対応→常勤看護師の配置が必要</p>

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- 「生き方探求」を支える児童生徒の「生きる力」の育成
個別の指導計画の目標を児童生徒、保護者と共有し、その達成を図る。
 - ・ 個別の指導計画の目標を達成する（目標の具体化と基準の明確化により、80%以上の達成を目指す）。
- 社会の変化や関係者のニーズを踏まえた教育実践の探求
よりよい授業づくりを全国ネットワークで展開する。・・・遠隔授業 20 校以上
障害の重い子供の教科指導の在り方を提案する。・・・単元開発 18 事例以上
自立活動における指導すべき課題の明確化とその展開に取り組む。・・・10 事例以上
- 実践研究の活性化
外部資金を積極的に導入し、実践研究の活性化を図る。・・・3 事業以上の受託
個人・グループ研究を活性化し、研究内容の多様化を進める。・・・5 本以上の論文投稿

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

- 筑波大学附属桐が丘特別支援学校研究紀要第 55 巻 2020 年 3 月
文部科学省 2019 年度特別支援教育に関する実践充実事業（新学習指導要領に向けた実践事業）
3 年次報告書
- 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会編著『肢体不自由教育実践・授業力向上シリーズ No7』
（ジアース教育新社）への事例提供
- 第 57 回日本特殊教育学会大会
自主シンポジウム、ポスター発表
- 日本肢体不自由児協会『肢体不自由教育』教育実践の執筆（3 回）

学 校 評 価（自己評価） 報 告 書（項目別表）

令和元年度

学校名

筑波大学附属桐が丘特別支援学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-8	学習指導要領等の基準にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導に関する状況	個別の指導計画の活用を進めるため、指導の評価と修正の根拠となるケース会を年間計画の中に位置づけ、計画的に実施した。重点を置く事項を明確にした各教科の指導について、各教科および知的教科について学校年間指導計画の例の蓄積を始め、国語科、算数・数学科、社会科、理科、外国語（英語）科、保健体育科について事例をまとめた。研究紀要においては、資料として先の各教科の年間指導計画例と、重度重複研究について研究紀要に掲載した。
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	学校の存在意義を確認し、育てたい力の議論を踏まえ、将来構想を検討した。当校に求められるニーズを再確認し、研究成果と併せて学級編制案を作成した。これまでの研究成果も踏まえ、より多様なニーズに対応する教育課程の再編成を行い、その結果、次年度の定員をほぼ満たすことができた。
6-1-2	医療、福祉など関係機関との連携の状況	附属学校教育局と協議をすすめ、医療的ケア運営協議会の設置に向けた検討が開始されることとなった。大学を含めた医療的ケア実施体制全体の構造及び手続きの整理を行っていく必要がある。
10-1-1	学校に関する様々な情報の提供状況	学校ホームページのリニューアルが完了した。これまでの学校の取り組みとして、児童生徒の活動に加え、全国の肢体不自由特別支援学校等とのネットワーク構築に関わる情報（今年度は、外国語科 Cando リストの公開）など、より一層の内容の充実を図ることとした。
14-1-2	大学との連携・協力	ロボットスーツ HAL（腰タイプ）を装着することによる介助動作等の身体への負担軽減について、検証方法の検討を継続した。新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業の中、本学システム情報系及び企業との連携により、卒業式のライブ配信を行った。肢体不自由のある児童生徒の ICT を活用した実践に生かせる手ごたえを得た。
14-1-3	先導的教育研究	特別支援教育に関する実践研究充実事業として、学習に難しさがみられる肢体不自由児への目標設定と指導の重点化についての研究（各教科、知的各教科、重度・重複の各研究）をまとめ、全国に成果を発信した（全国肢体不自由教育研究協議会、日本特殊教育学会、研究成果報告会等での発表）。併せて、研究成果報告書等を作成し、全国に配布した。